鳥類　＜チドリ目　シギ科＞　　愛知県：絶滅危惧Ⅱ類（通過）　（国：リスト外）
AVES　＜CHARADRIIFORMES　SCOLOPACIDAE＞　　AICHI：VU（Pas）　（JAPAN：－）

エリマキシギ　*Philomachus pygnax* (Linnaeus)

【選定理由】

本来国内の生息数は少ない種であるが、その中でも愛知県は生息数の多い県であり、越冬個体数も多い県であったが、近年は渡りの季節の飛来数が減少しているだけでなく、越冬する個体も希になっている。

【形　態】

全長は、雄が 26～32cm、雌が 20～25cm、翼開長は雄が 54～58cm、雌が 48～52cm。雄の完全な夏羽は頸に襟巻状の飾り羽があり、色は白色、橙色、黒色やその混合など、個体により変化が大きい。雌の夏羽は、上面が淡褐色で黒褐色の斑があり頸から胸にかけて褐色の斑がある。冬羽は雌の夏羽に似るが、頸から胸の斑が淡い。幼羽の上面は暗褐色に黄褐色の鱗状で、脚の色は青味を帯びた淡黄色。

愛知県西尾市, 2019 年 4 月 1 日, 高橋伸夫 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

春秋の渡りで伊勢・三河湾沿岸の水田や水路などに飛来し、ごく少数が越冬する。

【国内の分布】

北海道から沖縄まで、国内各地に旅鳥として飛来するが数は多くない。

【世界の分布】

ユーラシア大陸北部で繁殖し、アフリカ、中近東、インド、オーストラリアで越冬する。

【生息地の環境／生態的特性】

主な生息環境は水田や池沼、水路など淡水の湿地で、沿岸部では汽水の湿地環境にも生息する。秋の渡りは 7 月末頃から始まり 10 月末までには渡去する。越冬個体は 11 月頃から姿を見せ始め、1 月前後に最大数になって一旦減少する。春の渡りは県内全体で多くても数羽であるが、3 月初旬頃から 5 月末頃に見られ、美しい夏羽に換羽中の雄成鳥が見られることもある。

【現在の生息状況／減少の要因】

現在は木曽川下流部左岸、庄内川河口、矢作川下流部と河口部周辺、一色干潟周辺、汐川干潟周辺、伊川津干潟周辺などがあげられる。生息数の多い種ではないが、過去の最大数は、秋に 20 羽程度、越冬期に 10 羽程度、春は 5 羽程度であった。減少の要因は、干拓地や埋立地の乾燥化である。

【保全上の留意点】

干拓地や埋立地の遊休部分に、淡水や汽水の湿地環境を復元する努力が必要である。また、過去に淡水系のシギ・チドリ類が多く生息していた地域では、水田の一部を借り受けて休耕田とするか、水田の一部の転作作物を麦・大豆でなく飼料米等にすることで、毎年水田の環境が継続されるようにすることが重要である。また、水田の一部を冬期湛水することで、水棲生物や土壌生物の生息環境を保全することも大切である。

【特記事項】

越冬する個体について県内の記録をみると、秋の渡りで飛来した個体群が、そのまま同じ地域に留まって越冬していると確認される例は見られない。秋の渡りで国内あるいは県内のどこかに飛来した個体である可能性はあるが、越冬する場所は秋の渡りの時とは異なる場所であることが多く、越冬羽数も秋の羽数とは関係がないようである。

【関連文献】

真野 徹, 1984. 黒田長久編, 決定版 生物大図鑑 鳥類, p.126. 世界文化社, 東京.

（高橋伸夫）